

キャラクター名
フムト・タバル

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ノイマン		ワークス	UGN支部長C	カヴァー	UGN公安自治部隊『ネルガル』部隊長
	オプショナル		年齢	22	性別	女
覚醒	命令	衝動	嫌悪	初期侵食率	33	%
出自	名家の生まれ(疎まれた子)	経験	心の壁	邂逅	任意→忘却『大切な人』	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	32
肉体	1	0	0			1	行動値	12
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	12
精神	5	1	0		4	10	戦闘移動	17
社会	1	0	0			1	全力移動	34

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
攻式抜刀術・雪華	白兵	13r		40		ダメ発生で相手にダイスデバフ
攻式抜刀術・四斬血牙	白兵	15r		44		ダメ発生で相手にダイスデバフ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
実験体-Lost number	P 有為	N 無関心		
古代種-Ancient renegade	P 連帯感	N 無関心		
忘れてしまった誰か	P 庇護	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ルーラー	2	6	セットアップ	視界	シーン選択	自動	Dロイス	
効果: ラウンド中相手の判定ダイスを-Lv個減								
クイックモーション	1	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: エフェクト以外の行動								
原初の青: 赫き剣	5	3+1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: HP[Lv×2]消費+8の攻撃力								
CR: ウロボロス	2	2	メジャー	至近	自身	自動		
効果: c値-Lv(下限値7)								
無形の影	1	4	メジャー	至近	自身	精神	-	
効果: 組み合わせた判定を精神置換								
原初の赤: 湯きの主	2	4+1	メジャー	至近	単体	対決	-	
効果: 起点。装甲無視+HP[Lv*4]回復								
原初の白: オーバーロード	1	3+2	メジャー	至近	自身	対決	80↑	
効果: 武器の攻撃力2倍。MP終了後破壊								
背教者殺し	1	3	メジャー	-	-	対決	-	
効果: ダメ発生時対象の判定ダイス-[Lv+1]								
コンバットシステム	1	3	メ・リ	-	-	対決	白兵	
効果: 判定ダイス+[Lv+1]								
排撃の一手	3	3	オート	視界	単体	自動	嫌悪	
効果: 判定D-Lv×2								
消散する魔法	3	20	オート	視界	単体	自動	120	
効果: 対象の判定値を-[Lv×10]する								
構造看破	★							
効果: 物質の把握								
代謝制御	★							
効果: 機械のような生き方								

「特段、語らう必要などないかと。当方は、貴方に興味を抱いておりません」
『まあ、そう言うな。会話こそが最も質の高い情報収集手段だろう?』
「否定。当方はより速い手段を知っている」

◆嗜好
好き: 特になし。正しきものなど。何かを忘れている。
嫌い: 正しくないもの。粛清されるべきもの。生きとし生けるもの

◆性格
機械的且つ事務的で、仮面のようなヘッドギアも相まって声色や挙動から感情を一切感じさせない。対して自我を持つ刀———遺産兵器・血妖刀『千子村正』(下項にて解説)は二ヒルな男性めいた口調で、常に大人の余裕を湛えている。尤も、フムト・タバルとの会話は相手を取り合わない関係であり弾んでいないようだが。
あらゆるものに興味を示さず、ただ職務だけを徹底してこなす姿から『お飾りの部隊長』『自我を削ぎ落とされた駒』などと揶揄する層も存在する。しかし、彼女に直接食って掛かることが出来るのはごく少数だ。

皮肉は通じない。どころか弁明も通じない。目を付けられれば、潔白を全力で証明する他にない。
究極的に人間性を捨てた彼女の前で、情に訴える手段は最も悪手と言えるだろう。

◆略歴
フムト・タバルはいつからUGN中枢評議会に居て、公安自治部隊で働くようになったのか……その一切が不明である。個人データが徹底的に秘匿処理を行われて

